

〈編集後記〉

『相愛国文』第十号です。今回、十周年記念、幾許かの感慨のなきにしもあらずです。

振り返りますに、昭和三年、「相愛女子専門学校」設置の認可を得、「国文科」が置かれ、受けて、昭和二十五年、「相愛女子短期大学」設置の認可を得、「国文科」が置かれる。爾来、なんなん五十年に、相愛女子短期大学「国文学科」はなろうとしています。

「国文学科」を思い起こす時、特に、今小路寛瑞、吉田孝次郎、田中重太郎、中野恵海、諸先生の名は忘れる訳にはいかない。古典にあつては、『枕冊子全注釈』に窺える、田中重太郎の文献学・訓詁注釈、近代にあつては、厳正にして、かつ文学（作品）の中心を捉えて離さない、吉田孝次郎に代表される、「国文学科」の「学風」であり、「伝統」であります。大きく時代が動き、国文学界にあつても、研究方法の根本的に変容を迫られている今日、「伝統をどの様に継承し、変容にどの様に対峙していくのか」、「相愛国文」第十号を世に送り出すにあたり、稟とした決意を新たにします。

(T)

〈執筆者一覧〉

橋本 雅之	本学国文学科助教
北谷 幸册	本学国文学科教授
鳥井 正晴	本学国文学科教授
柿谷 雄三	本学国文学科教授
山本 和明	本学国文学科助教

相愛国文 第十号

平成九年三月二五日 印刷

平成九年三月三十日 発行

編集・発行 相愛女子短期大学国文学研究室

〒559 大阪市住之江区南港中四―四―一

Tel 〇六一六一―二五九〇〇(代)

印刷所 和泉書院

〒543 大阪市天王寺区上汐五丁目三一―八

Tel 〇六一七七―一四六七